2023年度

第49回　北海道指定図書

●北海道の先生がおすすめする本を読んで、読書感想文を書こう！

北海道学校図書館協会

小学校低学年

メーカーによるコメント（e-honサイトorメーカーサイトより）
選定部によるコメント
ISBNコード　　（発行年月）

がっこうに　まにあわない

ザ・キャビンカンパニー/作・絵

あかね書房　1,650円

ゴウゴウと走り出した！ゆくてには、水たまりじゃぶじゃぶ！歩道橋ぐねぐね！！犬たちがわんわん！！！な～んて、じゃまするものばっかり！！！！はてさて、この男の子、学校にまにあうのかな？いつもの道で大冒険！？

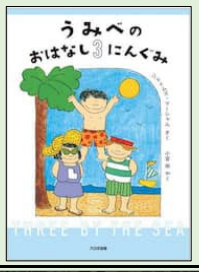
7時47分大急ぎで学校に向かう男の子。8時までに絶対に着かないといけないのに、ゆくてには次々とじゃまするものばかり。最後に待っているものとは・・・。ダイナミックでスピード感あふれる絵本。

978-4-251-09955-6　　（2022.6）

うみべのおはなし 3にんぐみ

ジェイムズ・マーシャル/作
小宮　由/訳

大日本図書　1,540円



砂浜でピクニックをしていた3人組。ローリーが自分で作ったお話をすることになりました。それを聞いたサムとスパイダーが、「ぼくならもっとおもしろいお話ができるよ！」と話し始めると…！？

砂浜でピクニックをしていた3人組。自分が作ったお話をすることになったけれど・・・。3人の個性も、仲の良さも、何より想像力が美しい童話。

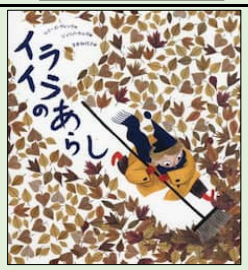
続編『木のうえのおはなし3にんぐみ』、『みずうみのおはなし3にんぐみ』

978-4-477-03396-9　　（2022.7）

イライラのあらし

ルイーズ・クレッグ/作
ジュリア・サルダ/絵
吉井　知代子/訳

金の星社　1,540円



はじまりは本当にちょっとしたこと。でも小さな風だったイライラがだんだん嵐のようになっていって…“イライラのあらし”がきたらどうしたらいいの？！どんどんふくらんでいくイライラと、上手につき合う方法。

“イライラのあらし”がきたらどうしたらいいの?!
どんどんふくらんでいくイライラと、上手につき合う方法は？

978-4-323-07512-9　　（2022.8）

いのちが かえっていくところ

最上　一平/作
伊藤　秀男/絵

童心社　1,430円

「すごいぞ、イワナだ！おおものだ」たもんは、ハアハアして、心臓が爆発しそうだった。声も出ない。魚を見ると、手がふるえてきた…
初めてイワナを釣り、初めて命の重さを実感した少年の物語。

初めてのイワナ釣りにやってきた　たもん。初めて魚がくいついた時に高揚と緊迫、重さを実感した命をいただくことで感じる心情を繊細かつ力強く描いた絵本。

978-4-494-01582-5　　（2022.10）

小学校中学年

はじめましての　ダンネバード

工藤　純子/作
マコカワイ/絵

くもん出版　1,540円

太田先生が、カツカツとチョークを鳴らして黒板に書いた。
―エリサ・ビソカルマ
名前？エリサ…エリサって日本人みたいな名前だな。

蒼太のクラスに転校生がやってきた。ネパールからやってきたエリサだ。
日本語の分からないエリサと気持ちが通うまでの物語。

978-4-7743-3320-5　（2022.6）

バスが来ましたよ

由美村　嬉々/文
松本　春野/絵

アリス館　1,540円

目の病気から全盲になった男性が、地元小学生に助けられながら続けた、バス通勤。「バスが来ましたよ」その声はやがて、次々と受け継がれ…。
温かい小さな手の、そして小さな親切の物語。

難病で失明してしまった男性が、地元の小学生にサポートされ、バスに乗ることができ通勤を続けることができた。小さな、でも心温まる親切な話。

978-4-7520-1013-5　（2022.6）

貝のふしぎ発見記

武田　晋一/写真・文
福田　宏/監修

少年写真新聞社　1,980円

海岸で見かける貝の、ほんとの姿は不思議がいっぱい！

タコやイカ、クリオネ、カタツムリは、貝の仲間。美しいもの地味なもの、その正体は軟体動物。その軟体動物には、不思議がいっぱい。

978-4-87981-757-0　（2022.6）

小学校高学年

父さんのゾウ

ピーター・カーナバス/作
美馬　しょうこ/訳

文研出版　1,540円

オリーブが台所へ入っていくと、パパの後ろにゾウがいた。でも、それはオリーブにしか見えなかった・・・。

オリーブは小学生の女の子。1歳のころに母親を亡くし、父さんはその悲しみでいつもぼんやりしている。父さんのそばには灰色のゾウがいて、オリーブにしか見えない。このゾウは父さんの悲しみそのものだ。そう考えたオリーブは、おじいちゃんや親友の手をかりてゾウを追い払おうとする。

978-4-580-82519-2　（2022.8）

たぶん　みんなは　知らないこと

福田　隆浩/著
しんや　ゆう子/画

講談社　1,540円

「いってきまーす！みんなには聞こえないけど、私は大きな声を上げた。」
知的障害のある小五のすずと兄、周りの人達の優しい物語。

重度の知的障がいのある小5の女の子、すず。話ができないすずの目線で、日々の生活が語られる。
すずを見守る家族、同級生、先生たちとの優しい物語。

978-4-06-527043-1　（2022.5）

ももちゃんのピアノ
沖縄戦・ひめゆり学徒の物語

柴田　昌平/文
阿部　結/絵

ポプラ社　1,650円

本物のピアノがひけると聞いて、ひめゆり学園に入学したももちゃん。しかし、戦争がはげしくなり、ピアノや音楽とはかけ離れた日々が続く、それでも「生きること」をあきらめなかった1人の女の子の物語。

1945年沖縄―当たり前の日常が、当たり前でなくなったとき、少女の命をつないだのは、ピアノの音色だった。音楽を生きる力にして戦禍を生きた女性のノンフィクション。

978-4-591-17356-5　（2022.5）

中学校

マスクと黒板

濱野　京子/作

講談社　　1,540円

　コロナで休校していた中学校が再開した。そんな中学 2 年生たちの日々を描く。

　休校空けの生徒たちを待っていたのは、「コロナに負けるな！」のメッセージと見事な黒板アート。こんなすごい絵、誰が描いたのか？
　美術部2年の立花輝も興味津々。一方、教室では、みんなマスクをつけ、ソーシャルディスタンスに気をつける毎日。文化祭も運動会もなくなるらしい。なんとなく味気ない日々を送るうち、輝は新しいクラスメイトの貴理・絵実・堅人らと、あるイベントをやることに―。

　978-4-06-527336-4　　（2022.4）

スクラッチ

歌代　朔/作

あかね書房　　1,650円

　コロナ禍でバレーの「総体」が中止になった鈴音。出展するはずの「市郡展」の審査がなくなった千暁。それでも「平常心」と言い聞かせ、出展作の「カラフルな運動部の群像」を描き続ける千暁のキャンバスに、不注意から鈴音が墨を飛ばして…？コロナ禍に立ち向かうすべての人に贈る、疾走する魂の物語！

　コロナ禍で、バレーの「総体」が中止になったり、展覧会の審査がなくなったりした中 3 の夏。そんな中でも、彼らは未来へ進んでいく。

　978-4-251-07312-9　　（2022.6）

（税込価格で表示）